

ニシイ ペインティングニュース

Nishii Painting NEWS

<http://www.nishii.co.jp>

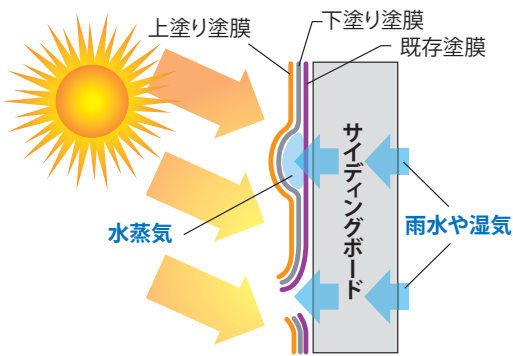
株式会社 西井塗料産業

〒812-0007 福岡市博多区東比恵3丁目4番6号
Tel 092(415)4518 Fax 092(415)4509
E-Mail eigyou-bu@nishii.co.jp

お問い合わせ、カタログ・サンプル依頼等
ございましたら、お気軽にご連絡ください。

外壁の塗り替え よくあるトラブル 窯業系サイディング編

折角きれいに塗り替えたのに、膨れたり、剥がれたり。。。なぜ？

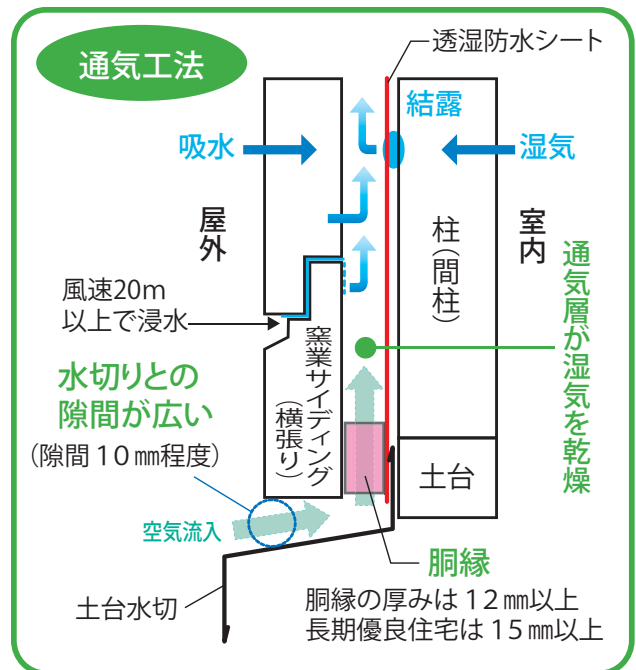
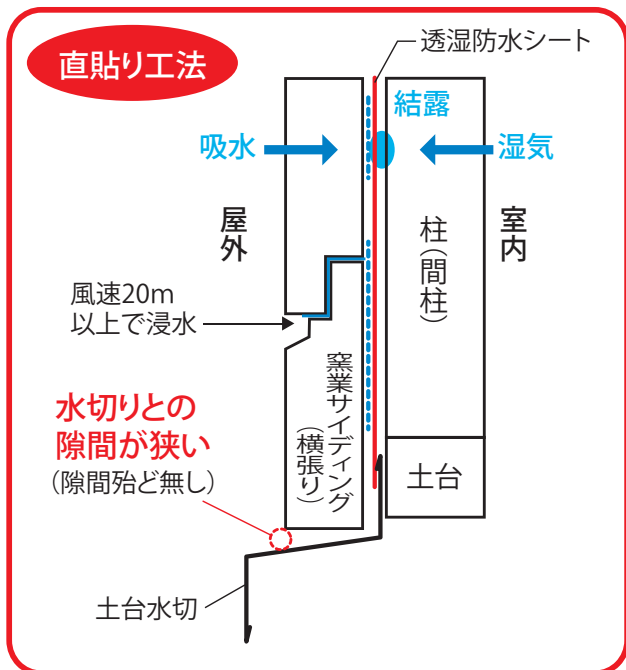


塗膜のフクレ・ハガレの原因(しくみ)

窯業系サイディングでは、「直貼り」など通気の確保がない場合、常にサイディングボード自体が湿っている状態になります。日射により塗膜が温められ(柔らかくなり)、また雨水や湿気が蒸発する際に(水蒸気が)塗膜を押し上げてしまいます。通気の確保が無ければ、塗装をしても(何度手直しを行っても)すぐに塗膜が膨れたり剥がれてきます。

窯業系サイディング 塗り替え前に確認しておきたいポイント

サイディングボードの張り方には「直貼り工法」と「通気工法」があります。大まかな目安ですが、2000年まではほぼ直貼りです。2000年4月以降品確法の標準工法として通気工法が取り入れられましたので、新しい家は通気工法になっている場合が多いと思われます。但し罰則がありませんので、新築・増改築でも残念ながら直張りが存在します。



直貼り? 通気?・・・どっち?

確認方法①

土台水切との隙間(幅)や奥行きを測ってみる。



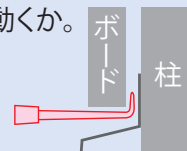
隙間が10mm程度空いているか。奥行きが25mm以上あるか。(直貼りの場合はボード厚み=12~15mm程度)

確認方法②

かぎ状の棒を差し込み、左右に動かしてみる。



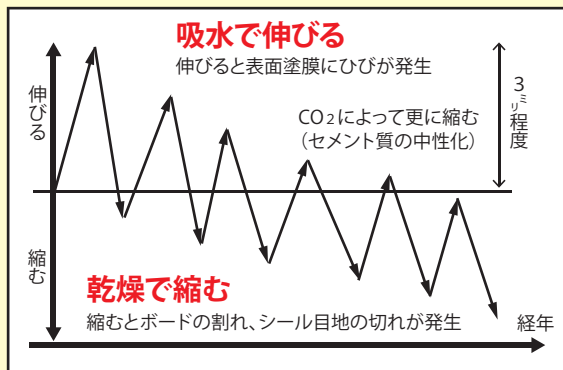
棒先端のかぎ状の部分がボードの裏側に回り込むか。左右にスムーズに動くか。



上記が確認方法の一例ですが、非常に判別しにくいのが実情です。また、一カ所を調べて通気工法だからといって、全て通気工法になっていない場合(増改築等)もあります。東西南北4面全てを調査しましょう。このほか、室内側で結露がひどい場所の外側や、風呂場や洗面所、台所など水周りの外側は要注意です。

窯業系サイディングの弱点

窯業系サイディングボードは非情に水を吸い込みやすい性質があります。特に1998年以前に製造されたものは伸縮率が大きいものが数多く存在しています。また、水や湿気を吸うと伸びる、乾くと縮むという湿乾伸縮現象が起きます。



例えば10年間湿乾伸縮を繰り返すと、表面の塗装膜にひび割れが発生します。そして伸縮を繰り返すうちに全体のサイズが縮んでいきます。縮んだ時は釘止めの廻りが割れたり、シール目地が切れたりします。少しでも長持ちさせる為には、湿乾伸縮を防ぐことが重要になってきます。つまり雨水や湿気を吸わせないことです。

- 方法として①塗装によって表面を保護(防水)する、②サイディングボードの張り方を変える(直張りをやめて通気工法にする)こととなります。

適切なメンテナンスで40~50年は使えます。 ※通気工法の場合

外壁は太陽光(紫外線)、風雨、雪、気温の変化など過酷な条件下にさらされています。サイディングはその表面に耐候性のある塗装が施され、目地部分には防水用のシーリング材が施され建物を保護していますが、塗装もシーリング材も半永久的なものではありません。美観と性能を保つ為には、年に1回程度の点検とメンテナンスを行うことが重要です。下記にお施主様でもできる日常点検のポイントをご紹介します。

点検内容	点検項目	メンテナンス時期の目安
塗装表面の状態	色あせ・藻・落ちなくなった汚れ・小さな亀裂やひび割れの有無	塗り替え5~10年毎
シール目地の状態	シーリング材自体の劣化によるひび割れやはく離の有無	程度により部分打ち替え ・全面打ち替え
全体的な状態	破損箇所や釘止め部・窓まわり等のひび割れの有無、変形(浮きや歪み)の有無	程度により部分張替え

※サイディングの商品グレードや建物の立地条件(地域・環境)などにより劣化の速度が異なります。
※最適なメンテナンスがなされますと、サイディングのみならず建物自体の老朽化を防ぎ資産価値の維持にもつながります。